

# 町民と森林事務所による黒松内岳の利用充実について

黒松内岳愛好会

辻野 健治

辻野 治子

## 1. 課題を取り上げた背景

黒松内岳は、渡島半島の付け根「北限のブナの里」黒松内町にある739mの山で、北海道百名山にも選ばれ、年々登山者が増加してきています。登山道沿いにブナの純林を楽しむことができ、頂上からは、噴火湾から日本海まで望める、手軽に登れる山です。

黒松内岳愛好会は、黒松内岳の自然を守りつつ、この山の利用充実を図り、黒松内岳のファンを増やしたいと願う、黒松内町民の集まりです。

登山道の9合目付近が崩壊して危険なので、なんとかしたいと、黒松内森林事務所に相談に行ったところ、「なんとかしましょう」と快く対応してくれたことが、私たちと森林事務所との共同作業の始まりでした。

## 2. 取組の経過

黒松内岳愛好会と黒松内森林事務所は2度の現地調査を含め、何度かの話し合いを行いました。2005年10月22日に簡単な測量を行い、雪解け後の2006年5月20日にも調べ、崩れている箇所を絞りこみを行いました。



### 我々の調査表

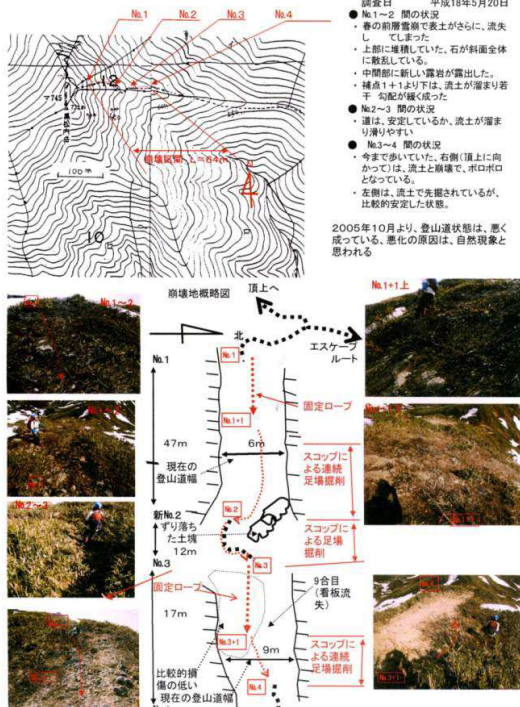
#### 黒松内岳 登山道崩壊状況調査

(2006/5/20)

調査日 平成18年5月20日

- No.1~2 間の状況
  - ・春の前層雪崩で表土がさらに、流失してしまつた。
  - ・上部に堆積していた、石が斜面全体に散らばっている。
  - ・中間部に新しい噴岩が露出した。
  - ・峰点1+1より下は、流土が溜まり若干勾配が緩くなった。
- No.2~3 間の状況
  - ・道は、安定しているが、流土が溜まり降りやすい。
- No.3~4 間の状況
  - ・今まで歩いていた、右側(頂上に向かって)は、流土と崩壊で、歩口ボコとなっている。
  - ・左側は、流土で先隠されているが、比較的安定した状態。

2005年10月より、登山道状態は、悪く成っている、悪化の原因は、自然現象と思われる



現場を見ると、急勾配で脆弱な表土が剥げて、足場が悪くなり、そのため植生に踏み込んで、更に植生を崩し裸地が出来、そこから石が頻りに落ちてくるという危険な状態でした。

対策として、新たな道を作るか、木階段を設置するか等話し合い、結局自然に与えるストレスが小さい、手すりロープの設置をして、登山道の固定化を行うことにしました。





ところが現場には、ロープを支える支点となる太い立木が無く、岩も柔らかい凝灰岩のため普通の支点が作れません。そこで、土木・建築工事で使われる接着系アンカーとロッククライミング用埋め込みボルト、及び薄い表土の下の凝灰岩に刺さる、太い径の鉄杭を試してみることにしました。

ロープは、引っ張っても伸びづらい、耐久性の高い、ケービング用のスタティックロープを使うことにしました。

2006年7月10日に黒松内町観光協会、岩内山岳会の協力を受け、9合目の危険箇所にはロープ約100mと注意看板2枚を設置しました。更に利用充実を図るため、1合から3合目間の急な登山道を迂回する「迂回路入口」看板、登山口周辺にある滝の名前看板の設置も同時に行いました。

7月15日には、黒松内岳山開きが行われ、登山口隣にある、綺麗な滝「ぶな滝」の襲名も同時に行いました。この日は、約20名の参加があり、設置したロープも、登り降りしやすくなったと好評でした。

### 3. 実行結果

崩壊地は、手すりロープ設置で、登山道の固定化が行われたことにより、踏圧による表土の破壊が著しく減り、さらに植生への踏み込みが減ったことにより、植生が徐々に回復しているように見受けられます。心配していた、ロープの支点も4ヶ月後確認しましたが、問題はありませんでした。ただ、今年の雪解け後、どのように遷移しているかの確認は必要と思われま



### 植生進入状況・ロープ設置確認



### 4. 考察

森林や山地の登山道の維持は、管理する官庁に依存していましたが、最近、官庁とその山を愛する地元ボランティアが、協力し合う例が増えてきました。

黒松内岳においても、森林事務所が看板の材料を用意し、町民ボランティアがもっているロッククライミング技術を応用してロープを設置し、絵心のある会員が手書き看板を作成する等、お互いの出来ることを出し合って協力し、大きな成果をあげることができました。

このように官庁と地元登山者が一緒に係わりあって、山を守り、利用充実を図っていくことは、とても大切なことと感じます。

私も、道内を転勤していますが、各地でこのような活動に、協力しています、

今後、黒松内岳周辺では、町民、地元NPO、研究者そして、黒松内町を交えてブナの森を増やそうとする試み「黒松内岳ブナの林再生プロジェクト」が動き出しています。

この活動により、私がここで味わったブナの森の神秘性を、さらに多くの方々に味わっていただけるようになればと思う次第です。

